

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所番号 | 1490900030 |
| 法人名 | 有限会社 ランドマーク |
| 事業所名 | グループホームあすなろ弐番館 |
| 訪問調査日 | 平成20年12月10日 |
| 評価確定日 | 平成21年1月30日 |
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 1490900030 |
| 法人名 | 有限会社 ランドマーク |
| 事業所名 | グループホームあすなろ式番館 |
| 所在地 | 223-0058 横浜市港北区新吉田東6-15-14 (電話) 045-549-0228 |

| | | | |
|-------|----------------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION | | |
| 所在地 | 221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F | | |
| 訪問調査日 | 平成20年12月10日 | 評価確定日 | 平成21年1月30日 |

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|--------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 19年 3月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 22 人 | 常勤 | 11人, 非常勤 11人, 常勤換算 11.8人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|------|----|------|
| 建物構造 | 木造り | | |
| | 2階建て | 1階 | 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 62,000 円 | その他の経費(月額) | 40,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(248,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 250 円 | 昼食 | 350 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 200 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 8 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 81.3 歳 | 最低 | 72 歳 | 最高 | 89 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | すこやか高田中央病院 |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社ランドマークの代表者、ホーム長のお父様が社会福祉協議会の会長だった事情もあり、区の要請もあり、土地の有効活用と地域への貢献なども視野に入れ、会社を設立しグループホームを展開した。ホームの敷地は広く庭は芝生の部分の他に実の食べられる樹木(栗、柿、蜜柑、ブルーベリー)があり、広い畑ではふんだんに野菜が栽培出来るなど恵まれたスペースがある。式番館建設に当たっては、あすなろの経験を踏まえ、また職員にあすなろの経験を踏まえた意見なども取り入れたため、いろいろの工夫が組み込まれている。管理棟はあすなろと共通であり、会議室、職員の休憩室打合せコーナーを活用出来る。1F,2Fの交流もあり、近所の小学生も3ヶ月に1回程度遊びに来る。医療連携体制を取り、ホームとドクターとの関係ではご家族と三者で終末期に差し掛かった時点に於いて一緒に話し合い、相談するようにしており、看取り実施の場合の職員の心の問題についてはカンファレンスで話し合うようになっている。ホーム目標として誤薬0をテーマとし、特に新人職員の教育を含めた職員教育に力を入れ、マニュアルを作り、主任を中心とした日常活動を強化、定着させている。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回特に取り組んだことは、利用者が発する言葉、その言葉が出て来ている背景などに注目して対応を考えてみた。考え方としてセンター方式のD4の24Hシートを活用(実際面では実用的な簡易版を作成)することにより、言葉の出た背景などの深堀を試みた。現実的には時間的な面(夕暮れ)、他の利用者の家族の訪問、出ている話題の種類などによる影響が見られた。この活動により利用者は自分の言葉を正面から受け止めてもらった満足感があることが分かり、今後も継続して取り組んで行くことにしている。</p> |
| | ② | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前出の教育の問題にも関連するが、利用者側から見れば正規職員、非常勤、パートの関係無く、介護者としては同じであり、ホームの方針に沿い、全員に自己評価票を渡し、記入してもらった。項目によっては記入が難しいものもあり、書ける人、書けない人はあるものの、早めに渡し、グループホームはこの評価項目の視点で見られることを理解し、期限を定めて提出をしてもらい纏めを行った。</p> |
| 重点項目 | ③ | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については2ヶ月に1回ペースの開催が定着した。会議の終了時に次の開催日を決める流れも定着した。既に運営推進会議以前からあすなろ祭りなど地域行事との連携があり、運営推進会議は相互に補完する位置付けとなっている。防災についてはホーム長を始め職員に消防団の団員がおり、町の消防団に参加するとともにホーム内にも防災責任者を置いている。今後、運営推進会議において災害対策について話し合っていくことにしている。ホームとしてはフロア単位で備蓄(米、水、非常食など)し、地域との相互扶助を考えている。</p> |
| 重点項目 | ④ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年2回、ユニット毎に勉強会も併設して開催している。開催の形は昼食をはさんでユニット毎に、午前は1階、午後は2階、主に土日に実施し、少人数で意見を出しやすく、預けているのは自分達だけではないとの安堵感などを配慮をしている。ご家族へは毎月、手書きの報告書を作成し報告している。来訪時には状況をお話し、日常生活・行事の何気ない写真を展示したりして様子が伝わるようにしている。「サマリーシート」及びケア計画に参加頂きご意見を頂いている。</p> |
| 重点項目 | ⑤ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>特徴で述べたように地域に根付いての発足であるため、地域との連携に関しては枚挙にいとまが無いほどであるが、町会と合同で行う「あすなろ祭」を筆頭に小学生の総合学習の受け入れ、研修室があるので他地区の民生委員をも含めた民生委員の認知症に関する勉強会の開催、各種ボランティアの受け入れ、地域のケアマネジャーの勉強会、病院の相談員との連携等々で福祉の地域の中核施設となっている。港北区からの見学があったり、町内会から敬老の日の壽カステラを全員が頂くなど関係も良好である。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホームの理念に「人々(地域)とのふれあい大切にします」と謳っている。事業者が地元の住民で、昔からの地域との連携を大切にしながらホームが地域のなかにとけこんだものになるよう理念を作り上げている。 | ○ | 今後も重点的に継続していく。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「理念」というものを意識して業務にあたり、内部研修の中でも再確認しあうようにしている。玄関・事務所に理念を掲示してありいつも目にできるようにしている。フロア一会議等を通し、職員全員が理念を具体化したケアを理解しその実践に取り組んでいる。 | ○ | 今後も重点的に継続していく。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | あすなる自体が町内会に参加していて回覧板も届いている。地域の情報を知る事ができ、盆踊りに参加している。またホームの竹の子掘りに地元の子供たちを招待したりしている。地元の小学校や保育園と交流会があり利用者とのふれあいができている。 | ○ | 継続していく |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 常勤・非常勤に関係なく職員全員が自己評価の意義を理解し、全員で評価を行い質の向上にむけて取り組んでいる。 | | 継続していく |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を平成19年8月9日(木)に第1回を開催して以来、2か月に1度定期的開催している。委員会でも貴重な意見・アドバイス等をホームの質の向上に活かしている。運営推進委員会には地域の方にメンバーになって頂いており、ホームの現状などを理解して頂いている。 | | 継続していく |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所の内容をオープンにしており、市町村の理解を受けていると考える。地域の行事等を通して区長をはじめ行政の方々と顔見知りになり、情報交換しやすい関係にある。 | | 継続していく |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 利用者の毎月の様子やホームからのお知らせ等を月次報告書に仕上げ家族に送付している。日常生活の様子や行事の写真をホール内に掲示していつでも見られるようにしている。ビデオを用意して家族がいらした時に映像で普段の様子をみられるようにしている。 | ○ | 継続していく |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を各ユニット毎に開き、家族の意見を聞けるようにしている。また、意見箱を用意して自由に意見・苦情を受けられるようにしている。管理者は日ごろから家族と話しやすい雰囲気づくりに心がけており、家族の訪問時には出来るだけ会話を持つようにしている。面会できない時にはメモなどのやりとりをしている。 | | 継続していく |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット毎に職員を固定して、居室担当を設け利用者との職員の馴染みの関係を作れるようにしている。人事異動に関しては利用者への影響に配慮して考えている。 | | 継続していく |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 常勤・非常勤に関わらず研修に参加することを薦め、研修には希望者はいつでも参加できるよう、また研修に参加した時には報告書で情報を共有できるようにしている。全職員を対象に有資格者による定期的な内部研修を開き、まだ資格のない職員にも今後、資格を有する事が出来るよう本人の向上心を高めるよう働きかけている。 | ○ | 継続していく |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入している。他施設との交換研修を行いお互いの情報やノウハウを交換して質の向上に向けている。グループホーム連絡会主催の講演会では受付を担当し、外部からの情報を取り入れる機会を作っている。 | ○ | 継続していく |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 職員は前もって利用者のアセスメントを読み把握しておき、本人に違和感のないような接し方をするよう努めている。また入居当初は家族の面会を多めにして本人の不安感等を最小限にできるように協力を得るようにしている。 | | 継続していく |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう心掛けている。理念に掲げられている「できることはしていただきます」の通り自信をもって生活できるようにしており、掃除や洗濯など一緒にできる場面を作りその場面でいろいろな事を聞かせて貰えるようにしている。 | | 継続していく |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族や本人からの聞き取りや日頃の本人の言動から本人の思いや願いに気づき出来るかぎり、それをくみ取った生活ができるようにしている。職員は毎日の個別介護記録の記入も本人の思いを知る一つの資源であると理解している。 | | 継続していく |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族との面談で家族の思いや・日頃の本人の言動からみえてくる本人の思いをケアカンファレンスで話しあい、そこで出てきた意見や意向を含めた計画作成をしている。職員は利用者の日常生活での気づきが大切である事を認識している。 | | 継続していく |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は常に職員が閲覧できるようにしてあり、その計画に沿ってのケアに不都合が生じるときはその都度改めて変更をしていくようにしている。入院等によって状況が変わった時にはその都度見直しを行っている。職員全員で定期的にモニタリングを行い、現在の介護計画が本人にとって適切か、見直しが必要かを検討している。 | ○ | 継続していく |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の状況が重度化したり、終末期になった時を考慮した対応ができるように、医療連携体制を整えて家族や本人の暮らしができるようにしている。 | | 継続していく |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームに往診医はいるが入居にあたり必ずしもかかりつけ医を変更する必要はなく本人や家族の希望する医療機関への受診が可能になっている。週に2回ホームの往診医の来診がある。主治医が別であっても本人と家族の希望があれば、インフルエンザ接種やレントゲン撮影等にも応じてくれている。 | ○ | 継続していく |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 開所後1年で2例の看取りを経験し、入居中の方を含めて新しい入居の方には入居時に「看取りの希望書」を渡し家族の意向を伺うようにしている。その際にはホームとして対応し得る支援方法を明確にしている。更に看取り時の同意書を用意しており、普段から医師・家族・職員同席の下で話し合いを持ちその都度今後の対応方針等の意向を確認していくようにしている。医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。 | ○ | 継続していく 医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 内部研修でテーマとして取り上げ常に職員にその意識をもつようにして、個人情報の漏えいには十分注意するようにしている。記録等の記入の際に限らず、現場を離れた時の会話にも注意をしている。ケアの場面でのトイレ介助の際にはプライバシータオルというものを用意している。 | | 継続していく |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の生活リズムや思いを尊重し、できる限りご本人にあった対応ができるようにしている。 | | 継続していく |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓にあがる野菜を畑で収穫したり、調理の一部や後片付けにかかわり、出来上がった食事をみんなで食することで楽しい食事が出来るようにしている。苦手なものや禁食に関しては食材や形態を変えるなどして、苦手意識のないように配慮している。 | | 継続していく |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日入浴可能な状態を維持し、入浴好きな人は毎日入り、拒否のある人には無理強いすることなく、調子の良い時に入っていたりできるようにしている。同性介護を望む方には出来るかぎり希望に添えるようにしている。個々の好み(湯温・入浴方法・時間等)を把握し希望にそようにしている。 | | 継続していく |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者個々のできること、できないこと、また、得意なことや興味のあることを把握し、参加してもらえそうな場面を作るようにしている。できた時や、していただいた時には褒めたり、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じてもらおうようにしている。役割表を作りその日の担当者を決めるなど積極的に参加を促している。 | | 継続していく |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域の行事への参加や季節ごとの行事(花見等)、誕生日会の外食など出来るだけ外へ出る機会を企画している。また場所的には車椅子の方も可能な場所を探すようにしている。外出・散歩表を活用し、特に外出傾向の少ない方には買い物理由づけにして外出して頂くようにしている。 | | 継続していく |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることへの違和感を常に持ち、出入りが自由な環境のなかでゆったりと過ごしていただけるようにしている。別ユニットとの職員と連携を図り誰が外に出ているかを把握している。出かけていった利用者を快く受け入れてもらえるようにしている。また施設外に出られた場合には必要以上に接近せず見守っている。 | | 継続していく |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署による調査で避難路・消火設備等が整っていることが確認されている。また事業者は地元の夜警に参加して防火の呼びかけに協力し、地域との連携を図るようにしている。職員の中には消防団に所属しているものがあり、その知識を他の職員にも広げてもらっている。各フロアに防火責任者の資格を有する者を置き、定期的に防災訓練を行っている。 | ○ | 継続していく ・非常食・燃料等を備蓄している。非常食に関しては賞味期限を確認し、時にはおやつに利用したりしている。食品の期限が切れないように注意している。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェック表に記入し、不足している時には好みに応じたものや摂りやすい物で補うようにしている。どうしても食事が摂れなくなってきた場合には、医療と連携し高カロリー補助食を取り入れている。 | | 継続していく |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 普通の家を連想するように特別なものは置かず、窓からは自然の明かりが差し込むようにしている。台所は対面キッチンで空間を遮断することなく利用者と職員が会話を楽しみながら一緒にできる事は手伝って頂けるようなつくりをしている。共有スペースにはイベントの写真や作品・季節ごとの花が飾ってある。 | | 継続していく |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の時には今まで本人が使用していた物や慣れているものを運んでもらい馴染みのある物の中での生活ができるように話をしている。仏壇をおいている利用者もいる。 | | 継続していく |

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 事業所名 | グループホームあすなろ式番館 |
| (ユニット名) | ひまわり |
| 所在地 (県・市町村名) | 223-0058 横浜市港北区新吉田東6-15-14 |
| 記入者名 (管理者) | 山越 加代子 |
| 記入日 | 平成 20 年 11 月 18 日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業者が地元の住民で、昔からの地域との連携を大切にしながらホームが地域のなかにとけこんだものになるよう理念を作り上げている。 | ○ | 継続していく ホームの理念に「人々(地域)とのふれあい大切にします」と謳っている。 |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「理念」というものを意識して業務にあたり、内部研修の中でも再確認しあうようにしている。 玄関・事務所に理念を掲示してありいつも目にできるようにしている | ○ | 継続していく フロアー会議等を通し、職員全員が理念を具体化したケアを理解しその実践に取り組んでいる。 |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 事業所内にある研修室を利用し、認知症についての研修やホーム見学会を開いている。事業者は自治会の会合や催事にも出席し、ホームでの催事にも参加を呼びかけている。また地域との合同開催によるイベント「あすなろ祭」を通して理解を得ている。 | ○ | 継続していく 地域の行事に参加した際には席などが用意されており、ホームそのものを理解されていると思われる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ゴミ捨てや散歩等の際には挨拶を交わし、洗濯物を干したり、取り込んだりする時にも、庭先で挨拶を交わしている。 また入居者の中には地元老人会に加入している人もいて、近所の方が老人会への送迎をして下さっている。 | | 継続していく |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | あすなろ自体が町内会に参加していて回覧板も届いている。地域の情報を知る事ができ、盆踊りに参加している。またホームの竹の子掘りに地元の子供たちを招待したりしている。地元の小学校や保育園と交流会があり利用者とのふれあいができている。 | ○ | 継続していく 運営推進委員会の設置では地域の方にメンバーになって頂いており、ホームの現状などを理解している。更には貴重なご意見やアドバイスをいただけるようになっている。 |
| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |

| | | | | |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の自治会・民生委員との連携をとり、高齢者問題の相談窓口になってきている。近隣の一般の方が気軽に身内の高齢者の問題について相談に来られることもある。(包括支援センターへつなげた例もある。) | | 継続していく |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 常勤・非常勤に関係なく職員全員が自己評価の意義を理解し、全員で評価を行い質の向上にむけて取り組んでいる。 | | 継続していく |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を平成19年8月9日(木)に第1回を開催して以来、2か月に1度定期的開催している。委員会での意見・アドバイス等をホームの質の向上に活かしている。 | | 継続していく |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所の内容をオープンにしており、市町村の理解を受けていると考える。地域の行事等を通して区長をはじめ行政の方々と顔見知りになり、情報交換しやすい関係にある。 | | 継続している |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員に対する研修会を開いている。事業者・管理者はグループホーム連絡会等の外部研修にも出席し、家族様の相談にのれるようにしている。その後、後見人制度を利用している利用者もいる。 | ○ | 継続していく 国籍が外国の方の入居継続にあたり家族に代わり、その手続きを行い利用者の権利が守られるよう支援している。今後、利用者の国際化が予測されるがどんなケースにも対応できるよう努力していきたい。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホーム内外の研修にて職員に周知してもらえるようにしている。事業者・管理者はそのようなことが起きないように職員のストレスケアにも注意している。職員からの相談に対応できるようスーパーバイザーをおいている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |

| | | | | |
|-------------|--|--|------|--|
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に重要事項説明の説明をし、ホームでの対応できる範囲や困難な場合も合わせて説明し納得していただいている。その際には開所してから起きた事例をあげ、その対応策までも伝えている。(特別養護老人ホームの申込等) | | 継続していく |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者は出来る限り利用者に接するようにしてご本人の思いを察知するようにしている。気になることがあった時には職員に伝えケアに活かすようにしている。各職員も利用者の日常の言動に留意して何気ない言葉に隠れている思いに気づくように心かけている。また意見箱を設けて自由に個々に思いを外部に伝えられるようにしている。 | | 継続していく |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の毎月の様子やホームからのお知らせ等を月次報告書に仕上げて家族に送付している。日常生活の様子や行事の写真をホール内に掲示していつでも見られるようにしている。 | ○ | 継続していく ビデオを用意して家族がいらした時に映像で普段の様子をみられるようにしている。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を各ユニット毎に開き、家族の意見を聞けるようにしている。また、意見箱を用意して自由に意見・苦情を受けられるようにしている。管理者は日ごろから家族と話しやすい雰囲気づくりに心がけており、家族の訪問時には出来るだけ会話を持つようにしている。面会できない時にはメモなどのやりとりをしている。 | | 継続していく |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月をフロア一会議・常勤者会議で職員からの意見を吸いあげるようにしている。職員からの要望は稟議書で意見を出せるようにしている。 | | 継続していく |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 管理者は原則としてシフトには入らず、昼夜を問わず柔軟な対応ができるようにしている。また調理専門の職員を配置し、手厚く介護ができるようにしている。行事等がある時はシフト以外の職員にも声かけして少しでも厚いケアができるようにしている。 | | 継続していく |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット毎に職員を固定して、居室担当を設け利用者との職員の馴染みの関係を作れるようにしている。人事異動に関しては利用者への影響に配慮して考えている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| | ○職員を育てる取り組み | 常勤・非常勤に関わらず研修に参加することを薦め、研修案 | | 継続していく |

| | | | | |
|----|---|---|---|---|
| 19 | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内等が届いたときには掲示して希望者はいつでも参加できるようにしている。また研修に参加した時にはその報告書を提出してもらい、参加できなかった職員にも情報が共有できるようにしている。 | ○ | 全職員を対象に介護教員の有資格者による定期的な内部研修を開いている。又まだ資格のない職員に対しても今後、資格を有する事が出来るよう本人の向上心を高めるよう働きかけている。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入している。他施設との交換研修を行いお互いの情報やノウハウを交換して質の向上に向けている。 | ○ | 継続していく グループホーム連絡会主催の講演会では受付を担当し、外部からの情報を取り入れる機会を作っている。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 各ユニット毎に職員の休憩室を設け、気分転換を図れるようにしている。個人的に相談事や悩みを打ち明けられた時や様子がいづもと違うと感じた時には個別に職場内外で話す機会を設けている。 | ○ | 継続していく 職員の要望に応じ、休憩室に畳を敷き職員が休憩中横になれるようにしている。 |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 運営者は全職員に対し、各種資格取得の奨励をしている。資格手当を支給することで励みになるようにしている。 | ○ | 継続していく 恒例の職員対象親睦会にて勤続年数に応じて報奨する場を設けている。 |

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 管理者・計画作成担当者は、自宅を訪問するかホームにお越しいただき本人やご家族と面談しそれぞれの話を聞きアセスメントしている。この時の会話の中から本人や家族の思いに気づくよう努力している。 | | 継続している |
|----|---|--|------|----------------------------------|
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所に至るまでの家族の苦悩を受け止め、労うことで少しでも家族がこころやすまるようにし、罪悪感を持たないようにしている。入居後、間もない利用者の家族へはこまめに様子を伝え不安や心配事を少しでも軽減できるようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | できる限り詳しい状況を把握できるように家族と信頼関係を結べるような話し合いの場を持ち、支援の方向を見極めるようにしている。更にはグループホームとは違った施設等の情報をお知らせしている。 | | 継続していく |

| | | | | |
|---------------------------|--|--|------|---|
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 職員は前もって利用者のアセスメントを読み把握しておき、本人に違和感のないような接し方をするよう努めている。また入居当初は家族の面会を多めにし本人の不安感等を最小限にできるよう協力を得るようにしている。 | | 継続していく |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう心掛けている。理念に掲げられている「できることはしていただきます」の通り自信をもって生活できるようにしており、掃除や洗濯など一緒にできる場面を作りその場面でのいろいろな事を聞かせて貰えるようにしている。 | | 継続していく |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 月次報告書や面会時に利用者の日々の様子を伝え、職員だけでなく家族との共通認識を持てるようにしている。季節ごとの衣類や寝具の入替を家族に依頼し、家族も一緒に本人を支えているという気持ちになって貰えるようにしている。 | | 継続していく |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族の面会をできるだけ多くしてもらえるように、家族会や行事を企画している。あすなろ祭やクリスマス会にも家族に参加してもらい、本人と家族がともに楽しい時間を過ごして頂いている。 | | 継続していく |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで加入していた老人会や趣味の会にも入居後も続けて加入している利用者がある。他にも美容室は今までのところに出かける利用者もいる。 | | 継続していく |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員は利用者同士の関係に留意して、利用者同士が円満な人間関係がもてるようにしている。利用者間で問題が起きそうな時は職員が間に入り、問題の回避にあたるようにしている。時には食席を変えたりして雰囲気に変化を持たせている。 | ○ | 継続していく 他利用者の非難・中傷ととられる言葉が聞かれた時には職員が間に入り、話題を変えてその場の空気を変えるようにしている。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | いつでも相談を受ける窓口となっていることを伝えている。家族へ季節の挨拶状を送っている。 | | 継続していく |

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

| | | | | |
|----|--|---|--|--------|
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族や本人からの聞き取りや日頃の本人の言動から本人の思いや願いに気づき出来得るかぎり、それをくみ取った生活ができるようにしている。職員は毎日の個別介護記録の記入も本人の思いを知る一つの資源であると理解している。 | | 継続していく |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居にあたり実施しているアセスメントで生活歴の情報をもらっているが、入居後も普段の会話の中や家族との会話の中でより深く今までの生活歴や生き方を知る事が出来るように努めている。 | | 継続していく |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 利用者一人ひとりの生活リズムを基本に過ごしていただき、バイタルチェックでその日の身体的な状況を把握し、生活の流れの中で精神面の状況を把握できるよう努めている。 | | 継続していく |

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

| | | | | |
|----|---|---|---|--|
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族との面談で家族の思いや、日頃の本人の言動からみえてくる本人の思いをケアカンファレンスで話しあい、そこで出てきた意見や意向を含めた計画作成をしている。職員は利用者の日常生活での気づきが大切である事を認識している。 | | 継続していく |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は常に職員が閲覧できるようにしており、その計画に沿ってのケアに不都合が生じるときはその都度改めて変更をしていくようにしている。入院等によって状況が変わった時にはその都度見直しを行っている。 | ○ | 継続していく 職員全員で定期的にモニタリングを行い、現在の介護計画が本人にとって適切か、見直しが必要かを検討している。(モニタリングの書式はプランに基づいて評価できるように工夫している) |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|----|---|---|----------------------------------|--------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の毎日の様子を個別介護記録に記入している。日常とは違った出来事や特に気になる言動があった時には職員間で申し送りを行っている。更には連絡ノートに記録し全職員で情報の共有をできるようにしている。健康面ではバイタル数値・排泄状況・睡眠状況・食事量・水分量・服薬状況を個別に記録しており、その中での変化を把握して介護計画に活かしている。 | | 継続していく |

| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
|-----------------------------|--|---|--|
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の状況が重度化したり、終末期になった時を考慮した対応ができるように、医療連携体制を整えて家族や本人の暮らしができるようにしている。 | 継続していく |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティアによる月に一度のお茶会ではいつもと違った時間を過ごしている。又、近くの保育園児の訪問を受ける事もあり普段の生活に変化を持つ事ができている。地域の盆踊りや老人会に参加したり、近隣の小学校の運動会の見学に出かけたりしている。 | 継続していく |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域ケアプラザや在宅時のケアマネジャーとの連絡をとり、本人の希望に応じたサービスが受けられるようにしている。 | ○ 継続していく 病院受診時などに利用できる介護付きタクシーの情報等を家族に出せるようにしている。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進委員会のメンバーにもなって頂いている事もあり各種情報を受ける事ができている。オーナーは地元出身である為、支援センターの所長とはホーム開所以前からの顔なじみの関係にあり、開所後はより一層の協働関係にある。今後も地域に根付いたサービスを提供していきける。 | 継続していく |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームに往診医はいるが入居にあたり必ずしもかかりつけ医を変更する必要はなく本人や家族の希望する医療機関への受診が可能になっている。 | ○ 継続していく 週に2回ホームの往診医の来診がある。主治医が別であっても本人と家族の希望があれば、インフルエンザ接種やレントゲン撮影等にも応じてくれている。 |
| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | | (○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | ホームドクターは認知症専門医ではないが、在宅医療に熱心な医師で多くのケースをみていて適切な指示や助言してくれる。また職員からの質問や不安に思うことにも答えてくれている。ホームドクターから「認知症の人と家族の会」を紹介され、更に不定期ではあるが小雑誌「ぼーれぼーれ」を頂いている。 | ○ 継続していく 症状の進行の具合によって適切な指示をもらい場合によっては他の医療機関への紹介をしてもらっている。対利用者だけではなく、介護者の相談にも、同じく医師で長く認知症に関して「認知症の人と家族の会」の山本文子氏を招いて下さり座談会を開いて下さっている。 |
| | ○看護職との協働 | | |

| | | | | |
|----------------------------------|---|--|------|---|
| 45 | 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 訪問看護ステーションと契約していて、日常の健康管理や医療面での相談にアドバイスをもらっている。 | ○ | 継続していく 訪問看護ステーションとホームドクターとの連携でよりスムーズな医療連携を図っている。 |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 提携医療機関のソーシャルワーカーとは壱番館の開所時から懇意にさせていただいており、早期退院へ向けて担当医師やリハビリ担当者との話合いの機会を設けてもらうなどしている。また、退院後の生活での相談にのってもらったりしている。利用者が入院した時は出来る限り頻繁に見舞いに行き、安心して治療を受け早期回復と機能低下を防ぐようにしている。 | | 継続していく |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 開所後1年で2例の看取りを経験し、入居中の方を含めて新しい入居の方には入居時に「看取りの希望書」を渡し家族の意向を伺うようにしている。その際にはホームとして対応し得る支援方法を明確にしている。更に看取り時の同意書を用意しており、普段から医師・家族・職員同席の下で話し合いを持ちその都度今後の対応方針等の意向を確認していくようにしている。 | ○ | 継続していく 医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。 |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人や家族の思いを最優先として随時家族とは話合い、意思を確認しながらかかりつけ医や訪問看護との連携のもと終末期を迎えられるよう取り組んでいる。ホームで出来得る看取りを明確にすることで必要な協力とは何かを確認し、各協力がある終末期を迎えられる事を看取りに関する全ての者が理解できるようにしている。 | ○ | 継続していく 2例の看取りに際しては医師・家族・訪問看護ステーション・職員の協力のもとで、ホームとして出来得るケアをさせて頂いた。ホームドクターと訪問看護ステーションとの連携があり、職員への精神的フォローにもつながっている。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 新しい生活に少しでも違和感がないように、他施設等に移る際にはこちらでの情報提供を行うようにしている。入院による退居の場合には見舞いを兼ねて安心していただけるように心がけている。 | | 継続していく |
| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | |
| | ○プライバシーの確保の徹底 | 内部研修でテーマとして取り上げ常に職員にその意識をも | | |

| | | | | |
|--------------------------------------|--|---|-------------|--|
| 50 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | つようにして、個人情報の漏えいには十分注意するようにしている。記録等の記入の際に限らず、現場を離れた時の会話にも注意をしている。ケアの場面でのトイレ介助の際にはプライバシータオルというものを用意している。 | | 継続していく |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 個々の利用者のできること・できないことを把握し、更に個別対応や傾聴を心がけ、利用者の思い・願いを理解し、したい事に気づきそれができる場面を作るようにしている。 | ○ | 継続していく レクリエーションやおやつ等、本人の好きなものを選ぶように選択肢を何種類か用意しておくようにしている。 |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の生活リズムや思いを尊重し、できる限りご本人にあった対応ができるようにしている。 | | 継続していく |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 入居前に行っていた美容院に行かれる方もいる。また利用者の好みに応じた清潔な身だしなみができるようにしている。家族が利用者の髪をカットされることもある。 | | 継続していく |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓にあがる野菜を畑で収穫したり、調理の一部や後片付けにかかわり、出来上がった食事をみんなで食することで楽しい食事が出来るようにしている。苦手なものや禁食に関しては食材や形態を変えるなどして、苦手意識のないように配慮している。 | | 継続していく |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 利用者個々の嗜好を把握し、出来得る限り生活の一部として楽しめるよう配慮している。毎日ではないが、お酒が好きな方には飲める機会を設けている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、訴えの少ない人に対してもこちらからの声かけで失敗に至らないよう努力している。出来得る限り、おむつの着用を避け通常の下着で過ごせるようにしている。 | | 継続していく |
| | ○入浴を楽しむことができる支援 | 毎日入浴可能な状態を維持し、入浴好きな人は毎日入り、 | | |

| | | | | |
|-------------------------------------|--|--|-------------|---|
| 57 | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 拒否のある人には無理強いすることなく、調子の良い時に入っただけのようにしている。同性介護を望む方には出来るかぎり希望に添えるようにしている。個々の好み(湯温・入浴方法・時間等)を把握し希望にそうようにしている。 | | 継続していく |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 一人ひとりの時間の過ごし方を大切にしながらも、アクティビティの工夫をし、ゆったりと楽しく過ごせるようにして、気持ちよい休息を取っただけのようにしている。又、夜安眠できるよう午前中の散歩を取り入れている。夜間眠れない方には温かい飲み物を提供し眠れるようにしている。 | | 継続していく |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者個々のできること、できないこと、また、得意なことや興味のあることを把握し、参加してもらえるような場面を作るようにしている。できた時や、していただいた時には褒めたり、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じてもらおうようにしている。役割表を作りその日の担当者を決めるなど積極的に参加を促している。 | | 継続していく |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者個々に財布を用意し散歩の途中で近くのコンビニに寄った際に好きなものを買ったりできるようにしている。またイベントのあすなろ祭では財布を持ち、すきな模擬店で買い物や遊びができるようにしている。(お預かり金の中から千円を個人財布に入れている。) | | 継続していく |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域の行事への参加や季節ごとの行事(花見等)、誕生日会の外食など出来るだけ外へ出る機会を企画している。また場所的には車椅子の方も可能な場所を探すようにしている。外出・散歩表を活用し、特に外出傾向の少ない方には買い物を理由づけにして外出して頂くようにしている。 | | 継続していく |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族や友人との外出には何のさまたげもなく、積極的に奨励している。 | ○ | 継続していく 家族・友人の協力を仰ぎ、公共機関を利用し買い物に出かけていただいている。事業所の車を利用し日帰り旅行等を予定している。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | レクリエーションの一つにも考えて家族や友人・知人へ季節の挨拶文を書いていただいている。また家族からの手紙も届き、その返信を書いたりやり取りが自由にできるようにしている。電話の要望には各ユニットにおいてある携帯電話を利用している。家族からも電話が入ると繋ぎ話をしていただいている。 | | 継続していく |
| | ○家族や馴染みの人の訪問支援 | | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|--|-------------|--|
| 64 | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 訪問時間・面会時間等の決まりを設けることなく、いつでも訪問していただけるようにしている。希望があればいつでも家族にもお泊り頂いている。 | | 継続していく |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修でテーマとして取り上げ職員に周知徹底をしている。ケアの方法についてはフロー会議・ケアカンファレンスで確認している身体拘束委員会を設けている。メンバーに一般職員も加え日常のケアに身体拘束にあたるものがないかを検討していく。 | | 継続していく |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることへの違和感を常に持ち、出入りが自由な環境のなかでゆったりと過ごしていただけるようにしている。別ユニットとの職員と連携を図り誰が外に出ているかを把握している。また出かけていった利用者を快く受け入れてもらえるようにしている。また施設外に出られた場合には必要以上に接近せず見守っている。 | | 継続していく |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 見守りの大切さを常に認識してホールの職員が空にならないように職員間での声かけを大事にしている。夜間帯では睡眠を妨げないように巡回を行うことで安全に配慮している。記録の記入等は出来る限り見守りを兼ねてしている。 | | 継続していく |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 利用者個々の状況(理解度等)に応じて保管するものとそうでないものとを分けている。また保管するほどでもない判断したもので、他の利用者に危険を及ぼしそうなものはその都度検討している。事務所で預かる場合でも「取り上げられた」という思いを抱かせないように対応している。 | | 継続していく |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故報告書を全職員間で共有して再発に努めている。また事故にいたらなかったケースでも危ないと感じたことや思ったことも連絡ノートに記入することで他の職員へも知らせ情報(危機感)を共有するようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 職員は必ず救命法を受講するようにしている。定期的に研修会を開き、まだ受講していない者にもその機会を設けている。事務所内には緊急時マニュアルを常に見られるように掲示している。 | | 継続していく |
| | ○災害対策 | 消防署による調査で避難路・消火設備等が整っていることが確認さ | | 継続していく |

| | | | | |
|-----------------------------------|--|---|-------------|---|
| 71 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | れている。また事業者は地元の夜警に参加して防火の呼びかけに協力し、地域との連携を図るようにしている。職員の中には消防団に所属しているものがあり、その知識を他の職員にも広げてもらっている。各フロアーに防火責任者の資格を有する者を置き、定期的に防災訓練を行っている。 | ○ | 継続していく 非常食・燃料等を備蓄している。非常食に関しては賞味期限を確認し、時にはおやつに利用したりしている。食品の期限が切れないように注意している。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 利用者個々の状況から起こり得るリスクについて家族と話し合い、時には往診医の同席も依頼し説明をする機会を設けている。その上で持てる力を活かしたゆったりとした生活ができるようにしている。 | | 継続していく |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日のバイタルチェックを行い普段との違いを把握し、さらには排泄状況や食欲の有無・顔色・元気の有無からも体調の変化や異変を見逃さないようにしている。変化がみられた時はホームドクターやえ家族に連絡し指示や往診を依頼している。(ドクターは24時間対応してくれている。) | | 継続していく |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者個々に配薬箱を用意しており、その箱に薬の作用や注意点等を記している。服薬は一人づつに渡し、他と間違えることのないように注意し完全に飲むのを確認している。配薬・与薬の両方を含めた「誤薬ゼロ」をスローガンにしている。 | | 継続していく |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 高齢者の不穏になる原因の一つに排便状況があることを知り、それを防ぐために繊維質の食物を摂っていただいたり、起床時には牛乳を提供している。排便チェック表をつけ便秘傾向の方には、特に散歩や出来る範囲の体操をしていただき自然な排便を促している。 | | 継続していく |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、口腔ケアを促し自分で可能な方は自分でしていただき、介助が必要な方にはお手伝いをして口腔ケアには注意している。義歯は就寝前に洗浄剤を使い清潔を保つようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェック表に記入し、不足している時には好みに応じたものや摂りやすい物で補うようにしている。どうしても食事が摂れなくなってきた場合には、医療と連携し高カロリー補助食を取り入れている。 | | 継続していく |
| | ○感染症予防 | 予防策をマニュアル化している。時期的に流行するものに対しては、 | | |

| | | | |
|----|--|---|--------|
| 78 | 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | してはその都度、通達し予防に努めている。インフルエンザ予防接種は職員・利用者とも受けるようにしている。玄関に消毒液を置き、入館する際には手指の消毒をしている。また手洗いとうがいを習慣化し手拭きにはペーパータオルを使用している。 | 継続していく |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板・布巾・調理器具の清潔を保持するための方法を決めている。食材は日付を記す事により新鮮かつ安全な期限内での使用するようにし、期限切れのものは処分している。また衛生管理局の協力を得て適切なアドバイスや情報をえるようにしている。衛生チェック表を活用し衛生管理の徹底を図っている。 | 継続していく |

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

| | | | |
|----|---|--|--------|
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物の周りを囲うような事はせず、どこから見られてもよいように花や木を植えている。また目の前の畑では作物の成長の様子が見える。ホーム前にある竹林では地域の子供たちが竹の子堀をし、畑で採れたものを近所の人におすそ分けしている。 | 継続していく |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 普通の家を連想するうように特別なものは置かず、窓からは自然の明かりが差し込むようにしている。台所は対面キッチンで空間を遮断することなく利用者と職員が会話を楽しみながら一緒にできる事は手伝って頂けるようなつくりをしている。共有スペースにはイベントの写真や作品・季節ごとの花が飾ってある。 | 継続していく |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールには3個の丸・四角のテーブルがあり、それぞれを隣通しに並べたり離したりして空間を自由に作る事ができるようにしている。ソファも用意してありそこに仲間と座ってテレビを観たりできる。ホール以外にもテーブルを設置しひとりになれる空間がある。 | 継続していく |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の時には今まで本人が使用していた物や慣れているものを運んでもらい馴染みのある物の中での生活ができるように話をしている。仏壇をおいている利用者もいる。 | 継続していく |
| | ○換気・空調の配慮 | 正午の暑い時は空調設備を頼らず自然の風をいれるよう | |

| | | | | |
|-------------------------------|---|--|--|---------------|
| 84 | <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> | <p>大気の良い時には空調設備に頼らず自然の風をいれるようにしている。空調設備を使用するときは外気温との差に気をつけ体調に影響のないようにしている。臭いの気になる場所では換気扇をまわして臭いがこもらないようにしている。</p> | | <p>継続していく</p> |
| <p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p> | | | | |
| 85 | <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>全館バリアフリーにしてあり、壁には手摺がついているのでつかまって歩くことができる。廊下の幅を広くしてあり、車椅子同士で行き交う事も可能な幅である。車椅子対応のトイレは十分な広さがあり窮屈さを感じさせないようにしている。エレベーターが用意されているので車いすでの昇降もできる。</p> | | <p>継続していく</p> |
| 86 | <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> | <p>利用者個々の認識力に応じて対応している。利用者がわかるように各部屋には表札・ガラス戸にはシールを貼っている。トイレには「使用中」札を作り入れるかどうかをその都度確認していただいている。</p> | | <p>継続していく</p> |
| 87 | <p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> | <p>庭に芝生をはり、緑の庭にして花を植えたプランターを周りに置いて水やりや草取りをしたりできる。玄関前には長ベンチを置き、自由に外気欲ができ、時にはホームドクターを交えて体調観察をして頂いている。</p> | | <p>継続していく</p> |

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|--------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物の前にある畑を庭のようにして散歩に出られるようにしている。またそこで作業している人と一緒に畑の草取りや収穫を体験してもらったりしている。さらにはそこで採れた野菜を食材として利用している。これらのことから、畑の野菜や植えてある果実・花から季節感を感じ収穫の喜びを感じていただけるようにしている。外部からのボランティアの協力をいただき、茶道会を開き普段とは違った場面を作っている。

地域との強い連携が図られており、ホームと地域が一体となって毎年恒例の「あすなる祭」を開催している。「あすなる祭」は家族をはじめ地域の方々の参加がありいつも大盛況に終わっている。

職員の定着率がよく、利用者とのなじみの関係が保たれている。

クリスマスシーズンになると建物の周りや畑の木々にイルミネーションを飾りつけ利用者のみならず近所の方にも楽しんで頂いている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 事業所名 | グループホームあすなろ式番館 |
| (ユニット名) | こずもす |
| 所在地 (県・市町村名) | 223-0058 横浜市港北区新吉田東6-15-14 |
| 記入者名 (管理者) | 山越 加代子 |
| 記入日 | 平成 20 年 11 月 18 日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業者が地元の住民で、昔からの地域との連携を大切にしながらホームが地域のなかにとけこんだものになるよう理念を作り上げている。 | ○ | 継続していく ホームの理念に「人々(地域)とのふれあい大切にします」と謳っている。 |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「理念」というものを意識して業務にあたり、内部研修の中でも再確認しあうようにしている。 玄関・事務所に理念を掲示してありいつも目にできるようにしている | ○ | 継続していく フロアー会議等を通し、職員全員が理念を具体化したケアを理解しその実践に取り組んでいる。 |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 事業所内にある研修室を利用し、認知症についての研修やホーム見学会を開いている。事業者は自治会の会合や催事にも出席し、ホームでの催事にも参加を呼びかけている。また地域との合同開催によるイベント「あすなろ祭」を通して理解を得ている。 | ○ | 継続していく 地域の行事に参加した際には席などが用意されており、ホームそのものを理解されていると思われる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ゴミ捨てや散歩等の際には挨拶を交わし、洗濯物を干したり、取り込んだりする時にも、庭先で挨拶を交わしている。 また入居者の中には地元老人会に加入している人もいて、近所の方が老人会への送迎をして下さっている。 | | 継続していく |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | あすなろ自体が町内会に参加していて回覧板も届いている。地域の情報を知る事ができ、盆踊りに参加している。またホームの竹の子堀りに地元の子供たちを招待したりしている。地元の小学校や保育園と交流会があり利用者とのふれあいができている。 | ○ | 継続していく 運営推進委員会の設置では地域の方にメンバーになって頂いており、ホームの現状などを理解している。更には貴重なご意見やアドバイスをいただけるようになっている。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |

| | | | | |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の自治会・民生委員との連携をとり、高齢者問題の相談窓口になってきている。近隣の一般の方が気軽に身内の高齢者の問題について相談に来られることもある。(包括支援センターへつなげた例もある。) | | 継続していく |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 常勤・非常勤に関係なく職員全員が自己評価の意義を理解し、全員で評価を行い質の向上にむけて取り組んでいる。 | | 継続していく |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を平成19年8月9日(木)に第1回を開催して以来、2か月に1度定期的開催している。委員会での意見・アドバイス等をホームの質の向上に活かしている。 | | 継続していく |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所の内容をオープンにしており、市町村の理解を受けていると考える。地域の行事等を通して区長をはじめ行政の方々と顔見知りになり、情報交換しやすい関係にある。 | | 継続している |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員に対する研修会を開いている。事業者・管理者はグループホーム連絡会等の外部研修にも出席し、家族様の相談にのれるようにしている。その後、後見人制度を利用している利用者もいる。 | ○ | 継続していく 国籍が外国の方の入居継続にあたり家族に代わり、その手続きを行い利用者の権利が守られるよう支援している。今後、利用者の国際化が予測されるがどんなケースにも対応できるよう努力していきたい。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホーム内外の研修にて職員に周知してもらえるようにしている。事業者・管理者はそのようなことが起きないように職員のストレスケアにも注意している。職員からの相談に対応できるようスーパーバイザーをおいている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |

| | | | | |
|-------------|--|--|------|--|
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に重要事項説明の説明をし、ホームでの対応できる範囲や困難な場合も合わせて説明し納得していただいている。その際には開所してから起きた事例をあげ、その対応策までも伝えている。(特別養護老人ホームの申込等) | | 継続していく |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者は出来る限り利用者に接するようにしてご本人の思いを察知するようにしている。気になることがあった時には職員に伝えケアに活かすようにしている。各職員も利用者の日常の言動に留意して何気ない言葉に隠れている思いに気づくように心かけている。また意見箱を設けて自由に個々に思いを外部に伝えられるようにしている。 | | 継続していく |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の毎月の様子やホームからのお知らせ等を月次報告書に仕上げ家族に送付している。日常生活の様子や行事の写真をホール内に掲示していつでも見られるようにしている。 | ○ | 継続していく ビデオを用意して家族がいらした時に映像で普段の様子をみられるようにしている。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を各ユニット毎に開き、家族の意見を聞けるようにしている。また、意見箱を用意して自由に意見・苦情を受けられるようにしている。管理者は日ごろから家族と話しやすい雰囲気づくりに心がけており、家族の訪問時には出来るだけ会話を持つようにしている。面会できない時にはメモなどのやりとりをしている。 | | 継続していく |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月をフロア一会議・常勤者会議で職員からの意見を吸いあげるようにしている。職員からの要望は稟議書で意見を出せるようにしている。 | | 継続していく |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 管理者は原則としてシフトには入らず、昼夜を問わず柔軟な対応ができるようにしている。また調理専門の職員を配置し、手厚く介護ができるようにしている。行事等がある時はシフト以外の職員にも声かけして少しでも厚いケアができるようにしている。 | | 継続していく |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット毎に職員を固定して、居室担当を設け利用者との職員の馴染みの関係を作れるようにしている。人事異動に関しては利用者への影響に配慮して考えている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| | ○職員を育てる取り組み | 常勤・非常勤に関わらず研修に参加することを薦め、研修案 | | 継続していく |

| | | | | |
|----|---|---|---|---|
| 19 | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内等が届いたときには掲示して希望者はいつでも参加できるようにしている。また研修に参加した時にはその報告書を提出してもらい、参加できなかった職員にも情報が共有できるようにしている。 | ○ | 全職員を対象に介護教員の有資格者による定期的な内部研修を開いている。又まだ資格のない職員に対しても今後、資格を有する事が出来るよう本人の向上心を高めるよう働きかけている。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入している。他施設との交換研修を行いお互いの情報やノウハウを交換して質の向上に向けている。 | ○ | 継続していく グループホーム連絡会主催の講演会では受付を担当し、外部からの情報を取り入れる機会を作っている。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 各ユニット毎に職員の休憩室を設け、気分転換を図れるようにしている。個人的に相談事や悩みを打ち明けられた時や様子がいづもと違うと感じた時には個別に職場内外で話す機会を設けている。 | ○ | 継続していく 職員の要望に応じ、休憩室に畳を敷き職員が休憩中横になれるようにしている。 |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 運営者は全職員に対し、各種資格取得の奨励をしている。資格手当を支給することで励みになるようにしている。 | ○ | 継続していく 恒例の職員対象親睦会にて勤続年数に応じて報奨する場を設けている。 |

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 管理者・計画作成担当者は、自宅を訪問するかホームにお越しいただき本人やご家族と面談しそれぞれの話を聞きアセスメントしている。この時の会話の中から本人や家族の思いに気づくよう努力している。 | | 継続している |
|----|---|--|------|----------------------------------|
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所に至るまでの家族の苦悩を受け止め、労うことで少しでも家族がこころやすまるようにし、罪悪感を持たないようにしている。入居後、間もない利用者の家族へはこまめに様子を伝え不安や心配事を少しでも軽減できるようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | できる限り詳しい状況を把握できるように家族と信頼関係を結べるような話し合いの場を持ち、支援の方向を見極めるようにしている。更にはグループホームとは違った施設等の情報をお知らせしている。 | | 継続していく |

| | | | | |
|---------------------------|---|--|------|---|
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 職員は前もって利用者のアセスメントを読み把握しておき、本人に違和感のないような接し方をするよう努めている。また入居当初は家族の面会を多めにし本人の不安感等を最小限にできるよう協力を得るようにしている。 | | 継続していく |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう心掛けている。理念に掲げられている「できることはしていただきます」の通り自信をもって生活できるようにしており、掃除や洗濯など一緒にできる場面を作りその場面でのいろいろな事を聞かせて貰えるようにしている。 | | 継続していく |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 月次報告書や面会時に利用者の日々の様子を伝え、職員だけでなく家族との共通認識を持てるようにしている。季節ごとの衣類や寝具の入替を家族に依頼し、家族も一緒に本人を支えているという気持ちになって貰えるようにしている。 | | 継続していく |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族の面会をできるだけ多くしてもらえるように、家族会や行事を企画している。あすなろ祭やクリスマス会にも家族に参加してもらい、本人と家族がともに楽しい時間を過ごして頂いている。 | | 継続していく |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで加入していた老人会や趣味の会にも入居後も続けて加入している利用者がある。他にも美容室は今までのところに出かける利用者もいる。 | | 継続していく |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員は利用者間の関係に留意して、利用者同士が円満な人間関係がもてるようにしている。利用者間で問題が起きそうな時は職員が間に入り、問題の回避にあたるようにしている。時には食席を変えたりして雰囲気に変化を持たせている。 | ○ | 継続していく 他利用者の非難・中傷ととられる言葉が聞かれた時には職員が間に入り、話題を変えてその場の空気を変えるようにしている。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | いつでも相談を受ける窓口となっていることを伝えている。家族へ季節の挨拶状を送っている。 | | 継続していく |

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

| | | | | |
|----|--|---|--|--------|
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族や本人からの聞き取りや日頃の本人の言動から本人の思いや願いに気づき出来得るかぎり、それをくみ取った生活ができるようにしている。職員は毎日の個別介護記録の記入も本人の思いを知る一つの資源であると理解している。 | | 継続していく |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居にあたり実施しているアセスメントで生活歴の情報をもらっているが、入居後も普段の会話の中や家族との会話の中でより深く今までの生活歴や生き方を知る事が出来るように努めている。 | | 継続していく |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 利用者一人ひとりの生活リズムを基本に過ごしていただき、バイタルチェックでその日の身体的な状況を把握し、生活の流れの中で精神面の状況を把握できるよう努めている。 | | 継続していく |

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

| | | | | |
|----|---|---|---|--|
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族との面談で家族の思いや、日頃の本人の言動からみえてくる本人の思いをケアカンファレンスで話しあい、そこで出てきた意見や意向を含めた計画作成をしている。職員は利用者の日常生活での気づきが大切である事を認識している。 | | 継続していく |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は常に職員が閲覧できるようにしており、その計画に沿ってのケアに不都合が生じるときはその都度改めて変更をしていくようにしている。入院等によって状況が変わった時にはその都度見直しを行っている。 | ○ | 継続していく 職員全員で定期的にモニタリングを行い、現在の介護計画が本人にとって適切か、見直しが必要かを検討している。(モニタリングの書式はプランに基づいて評価できるように工夫している) |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|----|---|---|----------------------------------|--------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の毎日の様子を個別介護記録に記入している。日常とは違った出来事や特に気になる言動があった時には職員間で申し送りを行っている。更には連絡ノートに記録し全職員で情報の共有をできるようにしている。健康面ではバイタル数値・排泄状況・睡眠状況・食事量・水分量・服薬状況を個別に記録しており、その中での変化を把握して介護計画に活かしている。 | | 継続していく |

| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
|-----------------------------|--|---|------|---|
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の状況が重度化したり、終末期になった時を考慮した対応ができるように、医療連携体制を整えて家族や本人の暮らしができるようにしている。 | | 継続していく |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティアによる月に一度のお茶会ではいつもと違った時間を過ごしている。又、近くの保育園児の訪問を受ける事もあり普段の生活に変化を持つ事ができている。地域の盆踊りや老人会に参加したり、近隣の小学校の運動会の見学に出かけたりしている。 | | 継続していく |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域ケアプラザや在宅時のケアマネージャーとの連絡をとり、本人の希望に応じたサービスが受けられるようにしている。 | ○ | 継続していく 病院受診時などに利用できる介護付きタクシーの情報等を家族に出せるようにしている。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進委員会のメンバーにもなって頂いている事もあり各種情報を受ける事ができている。オーナーは地元の出身である為、支援センターの所長とはホーム開所以前からの顔なじみの関係にあり、開所後はより一層の協働関係にある。今後も地域に根付いたサービスを提供していきける。 | | 継続していく |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームに往診医はいるが入居にあたり必ずしもかかりつけ医を変更する必要はなく本人や家族の希望する医療機関への受診が可能になっている。 | ○ | 継続していく 週に2回ホームの往診医の来診がある。主治医が別であっても本人と家族の希望があれば、インフルエンザ接種やレントゲン撮影等にも応じてくれている。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | ホームドクターは認知症専門医ではないが、在宅医療に熱心な医師で多くのケースをみていて適切な指示や助言してくれる。また職員からの質問や不安に思うことにも答えてくれている。ホームドクターから「認知症の人と家族の会」を紹介され、更に不定期ではあるが小雑誌「ぼーれぼーれ」を頂いている。 | ○ | 継続していく 症状の進行の具合によって適切な指示をもらい場合によっては他の医療機関への紹介してもらっている。対利用者だけではなく、介護者の相談にも、同じく医師で長く認知症に関して「認知症の人と家族の会」の山本文子氏を招いて下さり座談会を開いて下さっている。 |
| | ○看護職との協働 | | | |

| | | | | |
|----------------------------------|---|--|------|---|
| 45 | 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 訪問看護ステーションと契約していて、日常の健康管理や医療面での相談にアドバイスをもらっている。 | ○ | 継続していく 訪問看護ステーションとホームドクターとの連携でよりスムーズな医療連携を図っている。 |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 提携医療機関のソーシャルワーカーとは壱番館の開所時から懇意にさせていただいており、早期退院へ向けて担当医師やリハビリ担当者との話合いの機会を設けてもらうなどしている。また、退院後の生活での相談にのってもらったりしている。利用者が入院した時は出来る限り頻繁に見舞いに行き、安心して治療を受け早期回復と機能低下を防ぐようにしている。 | | 継続していく |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 開所後1年で2例の看取りを経験し、入居中の方を含めて新しい入居の方には入居時に「看取りの希望書」を渡し家族の意向を伺うようにしている。その際にはホームとして対応し得る支援方法を明確にしている。更に看取り時の同意書を用意しており、普段から医師・家族・職員同席の下で話し合いを持ちその都度今後の対応方針等の意向を確認していくようにしている。 | ○ | 継続していく 医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。 |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人や家族の思いを最優先として随時家族とは話合い、意思を確認しながらかかりつけ医や訪問看護との連携のもと終末期を迎えられるよう取り組んでいる。ホームで出来得る看取りを明確にすることで必要な協力とは何かを確認し、各協力がある終末期を迎えられる事を看取りに関する全ての者が理解できるようにしている。 | ○ | 継続していく 2例の看取りに際しては医師・家族・訪問看護ステーション・職員の協力のもとで、ホームとして出来得るケアをさせて頂いた。ホームドクターと訪問看護ステーションとの連携があり、職員への精神的フォローにもつながっている。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 新しい生活に少しでも違和感がないように、他施設等に移る際にはこちらでの情報提供を行うようにしている。入院による退居の場合には見舞いを兼ねて安心していただけるように心がけている。 | | 継続していく |
| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | |
| | ○プライバシーの確保の徹底 | 内部研修でテーマとして取り上げ常に職員にその意識をも | | |

| | | | | |
|-------------------------------------|--|---|-------------|--|
| 50 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | つようにして、個人情報の漏えいには十分注意するようにしている。記録等の記入の際に限らず、現場を離れた時の会話にも注意をしている。ケアの場面でのトイレ介助の際にはプライバシータオルというものを用意している。 | | 継続していく |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 個々の利用者のできること・できないことを把握し、更に個別対応や傾聴を心がけ、利用者の思い・願いを理解し、したい事に気づきそれができる場面を作るようにしている。 | ○ | 継続していく レクリエーションやおやつ等、本人の好きなものを選ぶように選択肢を何種類か用意しておくようにしている。 |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の生活リズムや思いを尊重し、できる限りご本人にあった対応ができるようにしている。 | | 継続していく |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 入居前に行っていた美容院に行かれる方もいる。また利用者の好みに応じた清潔な身だしなみができるようにしている。家族が利用者の髪をカットされることもある。 | | 継続していく |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓にあがる野菜を畑で収穫したり、調理の一部や後片付けにかかわり、出来上がった食事をみんなで食することで楽しい食事が出来るようにしている。苦手なものや禁食に関しては食材や形態を変えるなどして、苦手意識のないように配慮している。 | | 継続していく |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 利用者個々の嗜好を把握し、出来得る限り生活の一部として楽しめるよう配慮している。毎日ではないが、お酒が好きな方には飲める機会を設けている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、訴えの少ない人に対してもこちらからの声かけで失敗に至らないよう努力している。出来得る限り、おむつの着用を避け通常の下着で過ごせるようにしている。 | | 継続していく |
| | ○入浴を楽しむことができる支援 | 毎日入浴可能な状態を維持し、入浴好きな人は毎日入り、 | | |

| | | | | |
|--------------------------------------|--|--|-------------|---|
| 57 | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 拒否のある人には無理強いすることなく、調子の良い時に入っただけのようにしている。同性介護を望む方には出来るかぎり希望に添えるようにしている。個々の好み(湯温・入浴方法・時間等)を把握し希望にそうようにしている。 | | 継続していく |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 一人ひとりの時間の過ごし方を大切にしながらも、アクティビティの工夫をし、ゆったりと楽しく過ごせるようにして、気持ちよい休息を取っただけのようにしている。又、夜安眠できるよう午前中の散歩を取り入れている。夜間眠れない方には温かい飲み物を提供し眠れるようにしている。 | | 継続していく |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者個々のできること、できないこと、また、得意なことや興味のあることを把握し、参加してもらえるような場面を作るようにしている。できた時や、していただいた時には褒めたり、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じてもらおうようにしている。役割表を作りその日の担当者を決めるなど積極的に参加を促している。 | | 継続していく |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者個々に財布を用意し散歩の途中で近くのコンビニに寄った際に好きなものを買ったりできるようにしている。またイベントのあすなろ祭では財布を持ち、すきな模擬店で買い物や遊びができるようにしている。(お預かり金の中から千円を個人財布に入れている。) | | 継続していく |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域の行事への参加や季節ごとの行事(花見等)、誕生日会の外食など出来るだけ外へ出る機会を企画している。また場所的には車椅子の方も可能な場所を探すようにしている。外出・散歩表を活用し、特に外出傾向の少ない方には買い物を理由づけにして外出して頂くようにしている。 | | 継続していく |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族や友人との外出には何のさまたげもなく、積極的に奨励している。 | ○ | 継続していく 家族・友人の協力を仰ぎ、公共機関を利用し買い物に出かけていただいている。事業所の車を利用し日帰り旅行等を予定している。 |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | レクリエーションの一つにも考えて家族や友人・知人へ季節の挨拶文を書いていただいている。また家族からの手紙も届き、その返信を書いたりやり取りが自由にできるようにしている。電話の要望には各ユニットにおいてある携帯電話を利用している。家族からも電話が入ると繋ぎ話をしていただいている。 | | 継続していく |
| | ○家族や馴染みの人の訪問支援 | | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|--|-------------|--|
| 64 | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 訪問時間・面会時間等の決まりを設けることなく、いつでも訪問していただけるようにしている。希望があればいつでも家族にもお泊り頂いている。 | | 継続していく |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修でテーマとして取り上げ職員に周知徹底をしている。ケアの方法についてはフロー会議・ケアカンファレンスで確認している身体拘束委員会を設けている。メンバーに一般職員も加え日常のケアに身体拘束にあたるものがないかを検討していく。 | | 継続していく |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることへの違和感を常に持ち、出入りが自由な環境のなかでゆったりと過ごしていただけるようにしている。別ユニットとの職員と連携を図り誰が外に出ているかを把握している。また出かけていった利用者を快く受け入れてもらえるようにしている。また施設外に出られた場合には必要以上に接近せず見守っている。 | | 継続していく |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 見守りの大切さを常に認識してホールの職員が空にならないように職員間での声かけを大事にしている。夜間帯では睡眠を妨げないように巡回を行うことで安全に配慮している。記録の記入等は出来る限り見守りを兼ねてしている。 | | 継続していく |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 利用者個々の状況(理解度等)に応じて保管するものとそうでないものとを分けている。また保管するほどでもない判断したもので、他の利用者に危険を及ぼしそうなものはその都度検討している。事務所で預かる場合でも「取り上げられた」という思いを抱かせないように対応している。 | | 継続していく |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故報告書を全職員間で共有して再発に努めている。また事故にいたらなかったケースでも危ないと感じたことや思ったことも連絡ノートに記入することで他の職員へも知らせ情報(危機感)を共有するようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 職員は必ず救命法を受講するようにしている。定期的に研修会を開き、まだ受講していない者にもその機会を設けている。事務所内には緊急時マニュアルを常に見られるように掲示している。 | | 継続していく |
| | ○災害対策 | 消防署による調査で避難路・消火設備等が整っていることが確認さ | | 継続していく |

| | | | | |
|-----------------------------------|--|---|-------------|---|
| 71 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | れている。また事業者は地元の夜警に参加して防火の呼びかけに協力し、地域との連携を図るようにしている。職員の中には消防団に所属しているものがあり、その知識を他の職員にも広げてもらっている。各フロアーに防火責任者の資格を有する者を置き、定期的に防災訓練を行っている。 | ○ | 継続していく 非常食・燃料等を備蓄している。非常食に関しては賞味期限を確認し、時にはおやつに利用したりしている。食品の期限が切れないように注意している。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 利用者個々の状況から起こり得るリスクについて家族と話し合い、時には往診医の同席も依頼し説明をする機会を設けている。その上で持てる力を活かしたゆったりとした生活ができるようにしている。 | | 継続していく |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日のバイタルチェックを行い普段との違いを把握し、さらには排泄状況や食欲の有無・顔色・元気の有無からも体調の変化や異変を見逃さないようにしている。変化がみられた時はホームドクターやえ家族に連絡し指示や往診を依頼している。(ドクターは24時間対応してくれている。) | | 継続していく |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者個々に配薬箱を用意しており、その箱に薬の作用や注意点等を記している。服薬は一人づつに渡し、他と間違えることのないように注意し完全に飲むのを確認している。配薬・与薬の両方を含めた「誤薬ゼロ」をスローガンにしている。 | | 継続していく |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 高齢者の不穏になる原因の一つに排便状況があることを知り、それを防ぐために繊維質の食物を摂っていただいたり、起床時には牛乳を提供している。排便チェック表をつけ便秘傾向の方には、特に散歩や出来る範囲の体操をしていただき自然な排便を促している。 | | 継続していく |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、口腔ケアを促し自分で可能な方は自分でしていただき、介助が必要な方にはお手伝いをして口腔ケアには注意している。義歯は就寝前に洗浄剤を使い清潔を保つようにしている。 | | 継続していく |
| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェック表に記入し、不足している時には好みに応じたものや摂りやすい物で補うようにしている。どうしても食事が摂れなくなってきた場合には、医療と連携し高カロリー補助食を取り入れている。 | | 継続していく |
| | ○感染症予防 | 予防策をマニュアル化している。時期的に流行するものに対しては、 | | |

| | | | |
|----|--|---|--------|
| 78 | 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | してはその都度、通達し予防に努めている。インフルエンザ予防接種は職員・利用者とも受けるようにしている。玄関に消毒液を置き、入館する際には手指の消毒をしている。また手洗いとうがいを習慣化し手拭きにはペーパータオルを使用している。 | 継続していく |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板・布巾・調理器具の清潔を保持するための方法を決めている。食材は日付を記す事により新鮮かつ安全な期限内での使用するようにし、期限切れのものは処分している。また衛生管理局の協力を得て適切なアドバイスや情報をえるようにしている。衛生チェック表を活用し衛生管理の徹底を図っている。 | 継続していく |

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

| | | | |
|----|---|--|--------|
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物の周りを囲うような事はせず、どこから見られてもよいように花や木を植えている。また目の前の畑では作物の成長の様子が見える。ホーム前にある竹林では地域の子供たちが竹の子堀をし、畑で採れたものを近所の人におすそ分けしている。 | 継続していく |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 普通の家を連想するうように特別なものは置かず、窓からは自然の明かりが差し込むようにしている。台所は対面キッチンで空間を遮断することなく利用者と職員が会話を楽しみながら一緒にできる事は手伝って頂けるようなつくりをしている。共有スペースにはイベントの写真や作品・季節ごとの花が飾ってある。 | 継続していく |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールには3個の丸・四角のテーブルがあり、それぞれを隣通しに並べたり離したりして空間を自由に作るができるようにしている。ソファも用意してありそこに仲間と座ってテレビを観たりできる。ホール以外にもテーブルを設置しひとりになれる空間がある。 | 継続していく |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の時には今まで本人が使用していた物や慣れているものを運んでもらい馴染みのある物の中での生活ができるように話をしている。仏壇をおいている利用者もいる。 | 継続していく |
| | ○換気・空調の配慮 | 天気のよい時は空調設備を頼らず自然の風をいれるよう | |

| | | | | |
|-------------------------------|---|--|--|---------------|
| 84 | <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> | <p>大気の良い時には空調設備に頼らず自然の風をいれるようにしている。空調設備を使用するときは外気温との差に気をつけ体調に影響のないようにしている。臭いの気になる場所では換気扇をまわして臭いがこもらないようにしている。</p> | | <p>継続していく</p> |
| <p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p> | | | | |
| 85 | <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>全館バリアフリーにしてあり、壁には手摺がついているのでつかまって歩くことができる。廊下の幅を広くしてあり、車椅子同士で行き交う事も可能な幅である。車椅子対応のトイレは十分な広さがあり窮屈さを感じさせないようにしている。エレベーターが用意されているので車いすでの昇降もできる。</p> | | <p>継続していく</p> |
| 86 | <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> | <p>利用者個々の認識力に応じて対応している。利用者がわかるように各部屋には表札・ガラス戸にはシールを貼っている。トイレには「使用中」札を作り入れるかどうかをその都度確認していただいている。</p> | | <p>継続していく</p> |
| 87 | <p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> | <p>庭に芝生をはり、緑の庭にして花を植えたプランターを周りに置いて水やりや草取りをしたりできる。玄関前には長ベンチを置き、自由に外気欲ができ、時にはホームドクターを交えて体調観察をして頂いている。</p> | | <p>継続していく</p> |

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|--------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物の前にある畑を庭のようにして散歩に出られるようにしている。またそこで作業している人と一緒に畑の草取りや収穫を体験してもらったりしている。さらにはそこで採れた野菜を食材として利用している。これらのことから、畑の野菜や植えてある果実・花から季節感を感じ収穫の喜びを感じていただけるようにしている。外部からのボランティアの協力をいただき、茶道会を開き普段とは違った場面を作っている。

地域との強い連携が図られており、ホームと地域が一体となって毎年恒例の「あすなる祭」を開催している。「あすなる祭」は家族をはじめ地域の方々の参加がありいつも大盛況に終わっている。

職員の定着率がよく、利用者とのなじみの関係が保たれている。

クリスマスシーズンになると建物の周りや畑の木々にイルミネーションを飾りつけ利用者のみならず近所の方にも楽しんで頂いている。